

＜普及啓発部会：今年度事業計画解説および進捗状況＞

1. テーマを絞り一般向け講演会を開催する
「子宮頸がん」を中心とした内容で《シリーズ化》する
 - 平成 21 年 5 月 10 日（日）に沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会主催「受けていますか？子宮がん検診。」と題し、子宮頸がんについての講演会を 3 会場同日程にて行った。参加者計 100 名：アンケート回収率 78% ：詳細は別紙 6-1-1 の通り
2. 講演会を録画したものを、ライブラリー化し（4 病院内のみ）視聴可能にする
部会にて実施する講演会内容を録画し、各拠点病院で閲覧可能なライブラリー化する
 - 上記記載の講演会を録画し、データにて保管済み
3. 各拠点病院にてがん種毎の担当医一覧を作成し、ホームページに掲載する
 - 現在、すべての病院においてがん種毎の外来担当医をホームページに掲載済み
4. 情報提供の地域格差をなくす
情報格差をなくすため、離島圏における講演会を開催する
 - 沖縄県を中心とした講演会を開催、または市や保健所を通して行われる健康キャンペーンに参加し、がん検診についての情報提供を行う
5. 養護教員向けに子宮がんについての講習会を行う
沖縄県教育庁保健体育課にご協力いただき、普及啓発部会委員が養護教員向けの講習会を開く
 - 現在、来年度の講演会内容に差し込んでいただけるよう調整・協議中
6. 日本対がん協会とタイアップしてリレーフォーライフを行う
日本対がん協会が推進しているリレーフォーライフについて、沖縄県にて開催する際の広報協力を行う
 - 来年に行われる予定のリレーフォーライフにて広報活動を行えるよう、現段階から準備を進める
7. がん関連の DVD、および講演会録画データを視聴可能な場所、および機器を設置する
事業計画 4 に基づき、ライブラリー化したデータや関係機関より送付いただく資料を視聴できる環境整備を行う
 - 各拠点病院にて、視聴ブースが作れるよう働きかける
8. がん検診キャンペーンを具体化する
ピンクリボンキャンペーンなどのように、各 5 大がんのキャンペーンの内容の詳細を来年度に向けて協議し、いずれかを実施する
 - 今年度は子宮頸がんについての広報活動を重点的に行うが、来年度については未定の

為、来年度に向けてその他のがん検診についての情報収集も合わせて行う

9. インターネットが利用できない人の為に、その他の情報提供手段を考える
各市町村で配布している広報紙に相談窓口などの情報を提供できるよう働きかける
 - 現在、協議未実施

10. 協議会ホームページの内容の充実を図る
協議会のホームページでは、検診に限らず地域のがんの現状、対策、普及啓発、地域の病院の診療内容などを表示する
 - 今後、協議会のホームページを利用し、がん情報を提供する内容を協議する予定

11. 沖縄県生活習慣病検診管理協議会、アクションプラン推進協議会、沖縄禁煙協議会と相互に情報提供および交換を行う
 - 現在、協議未実施

「受けていますか？子宮がん検診。」講演会報告書

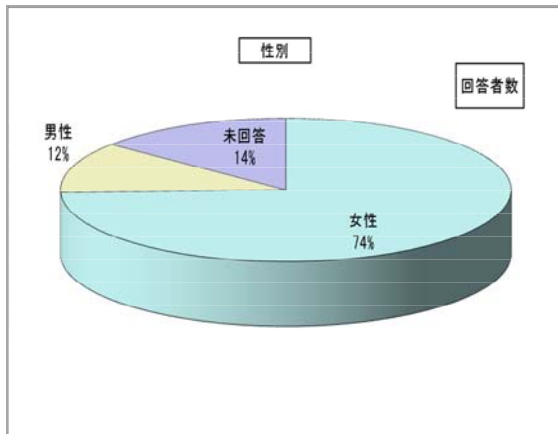
日時：平成 21 年 5 月 10 日(日) 14:00~16:00

場所：沖縄県立博物館・美術館、北部地区医師会北部看護学校、県立中部病院

参加者：100 名

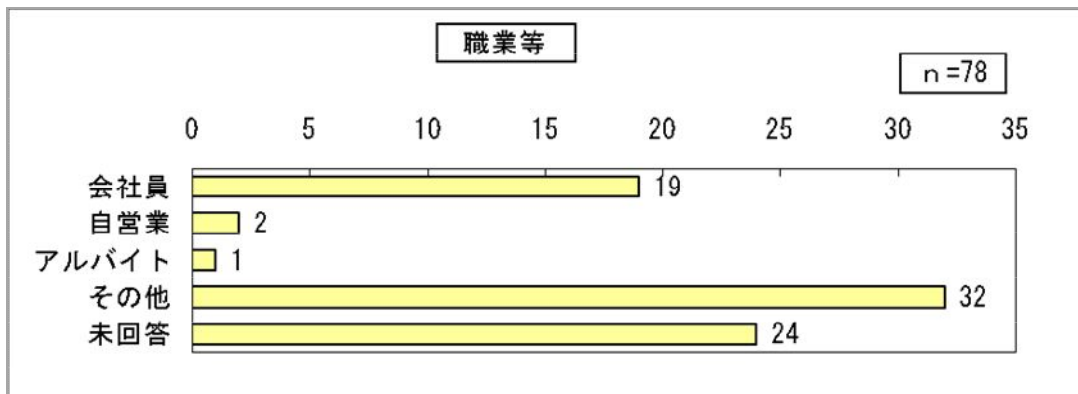
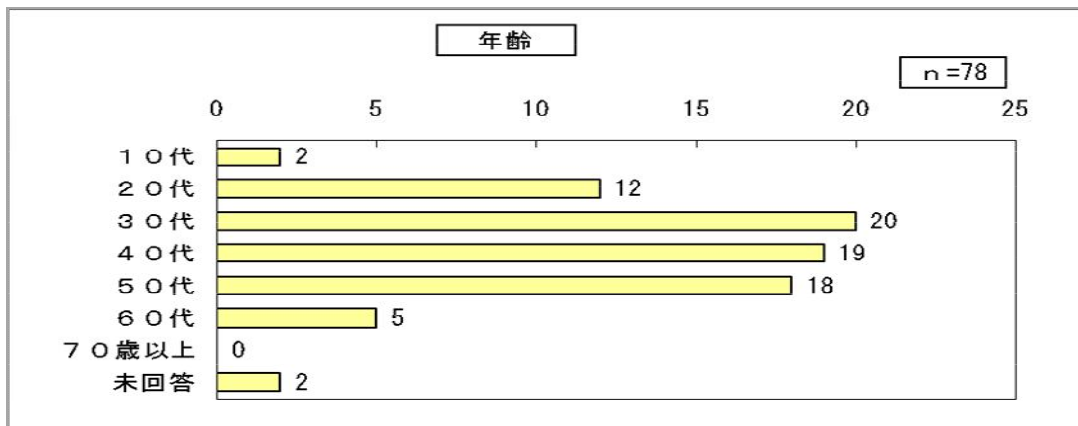
子宮がん検診についてのアンケート回答者：78 名（回収率 78%）

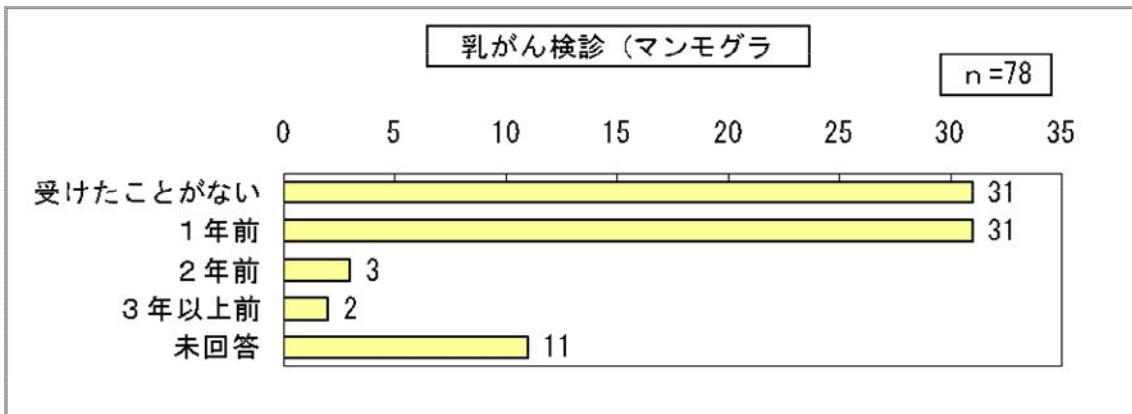
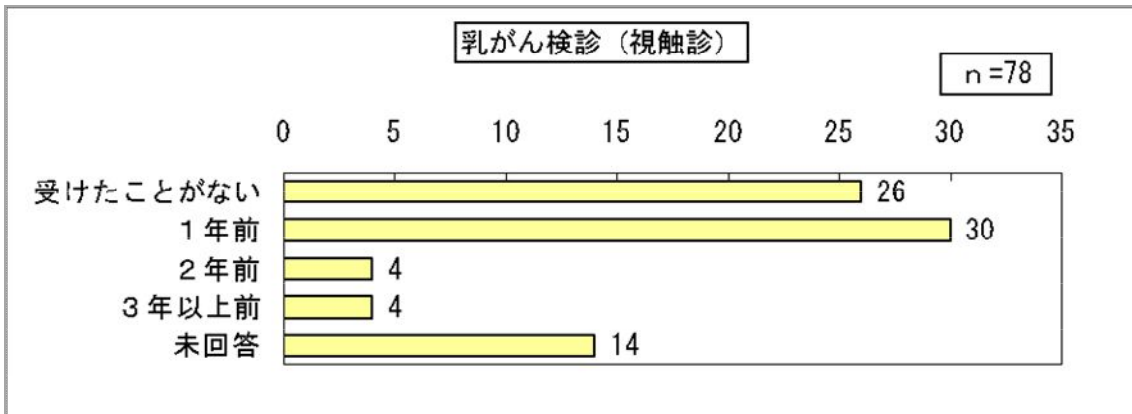
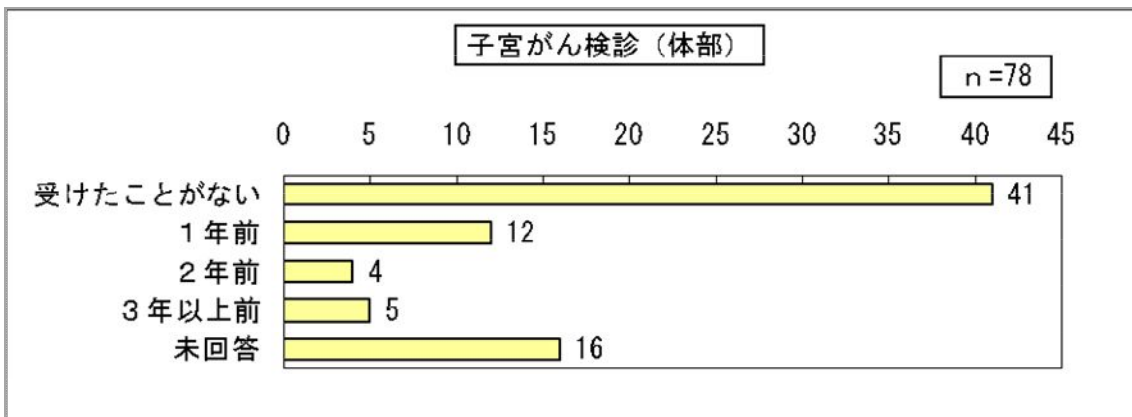
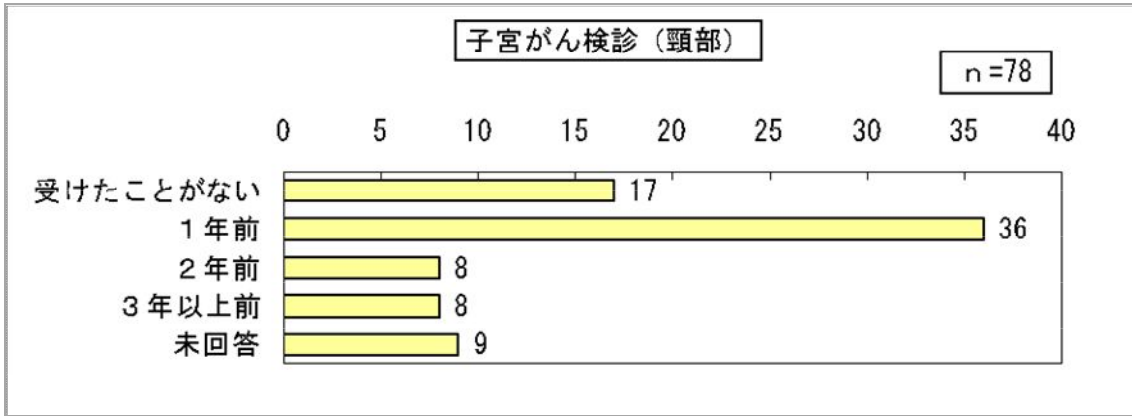
子宮がん検診についてのアンケート結果

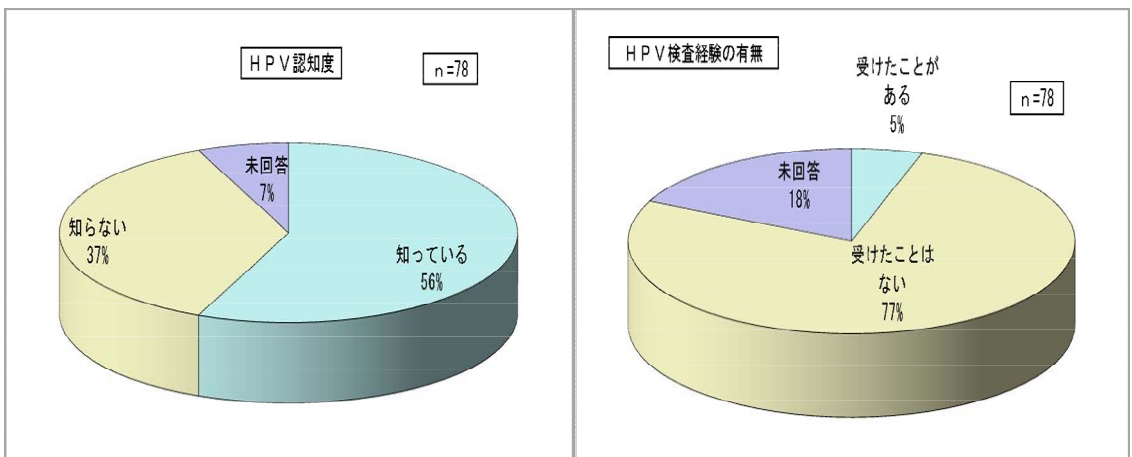
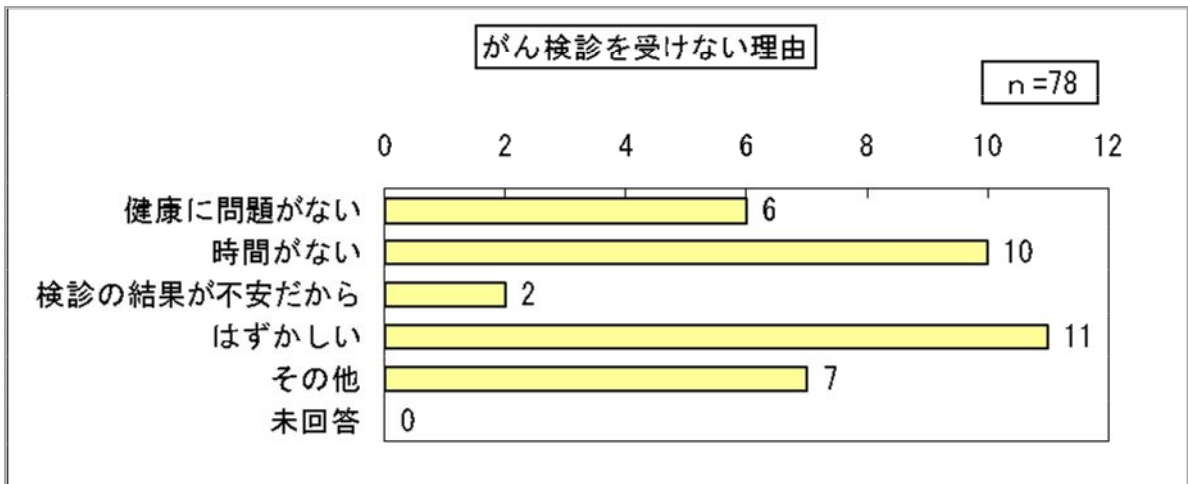
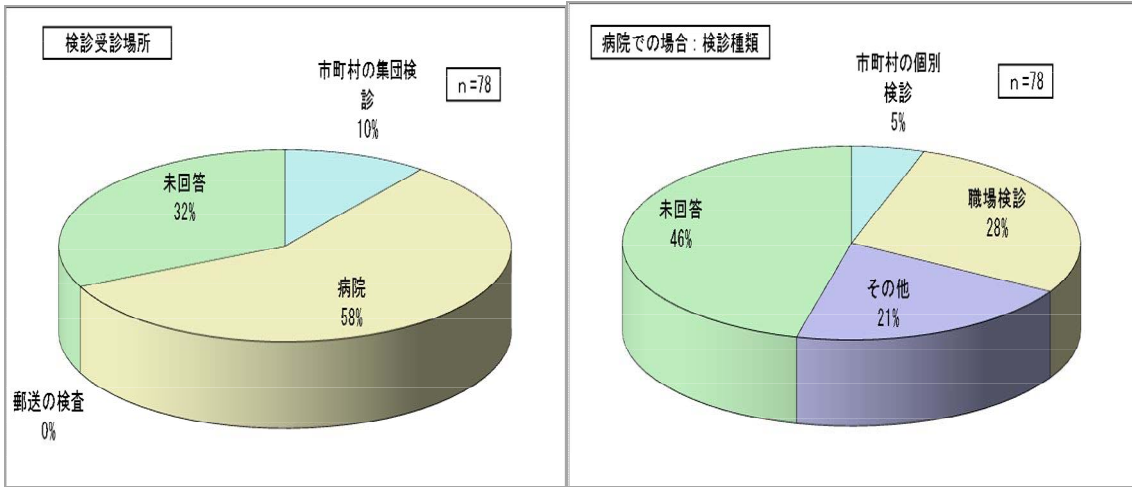


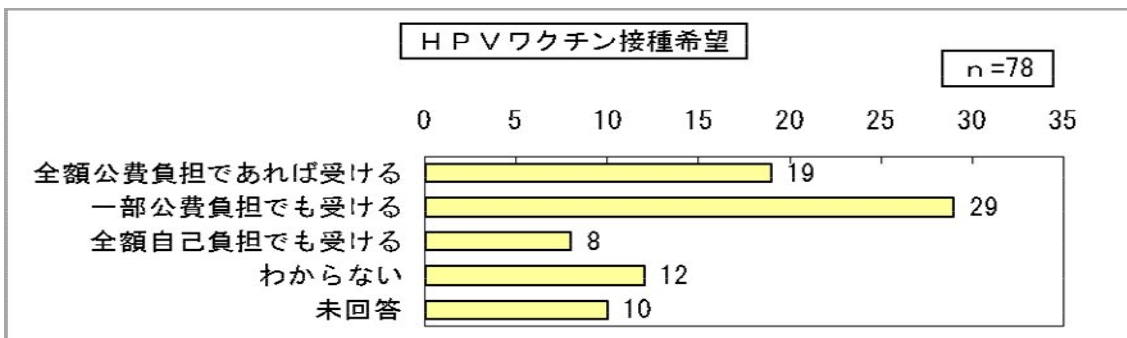
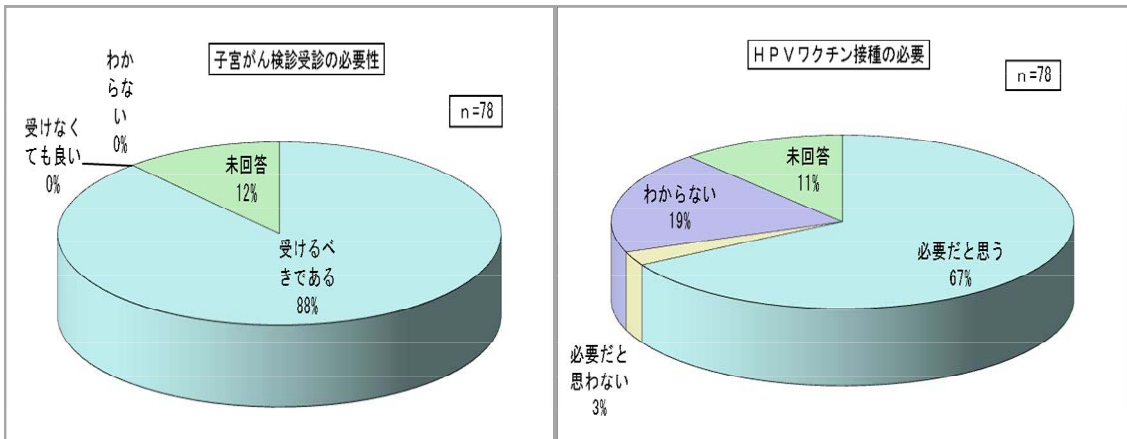
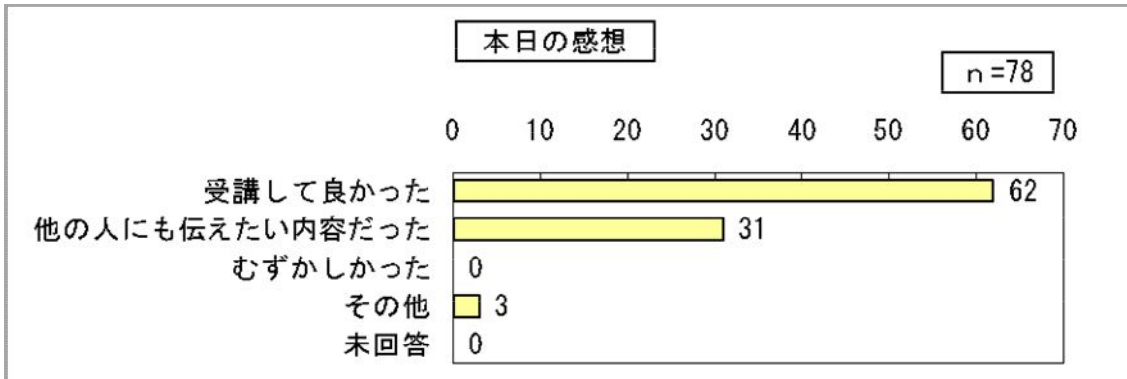
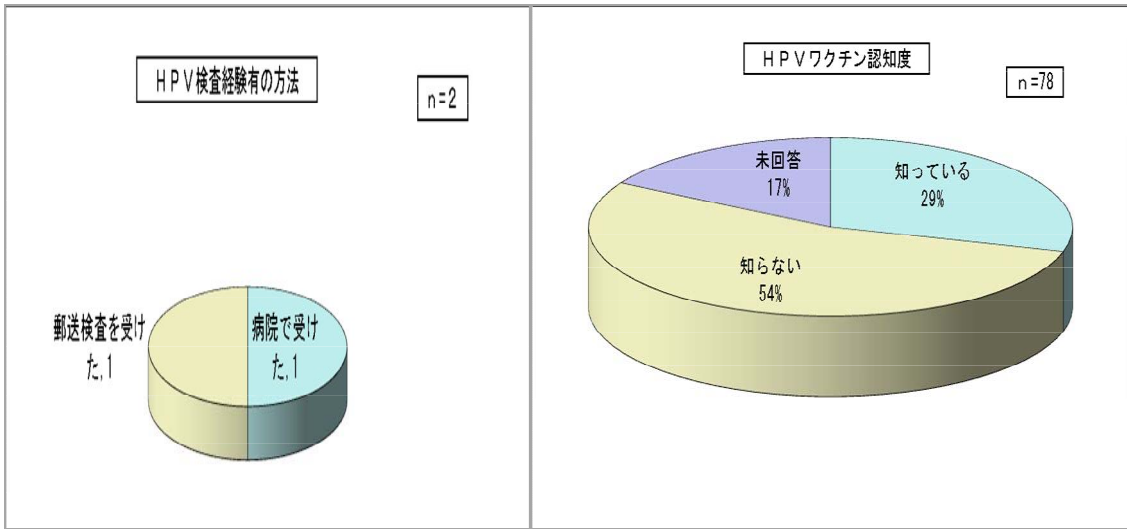
回答者：78 名

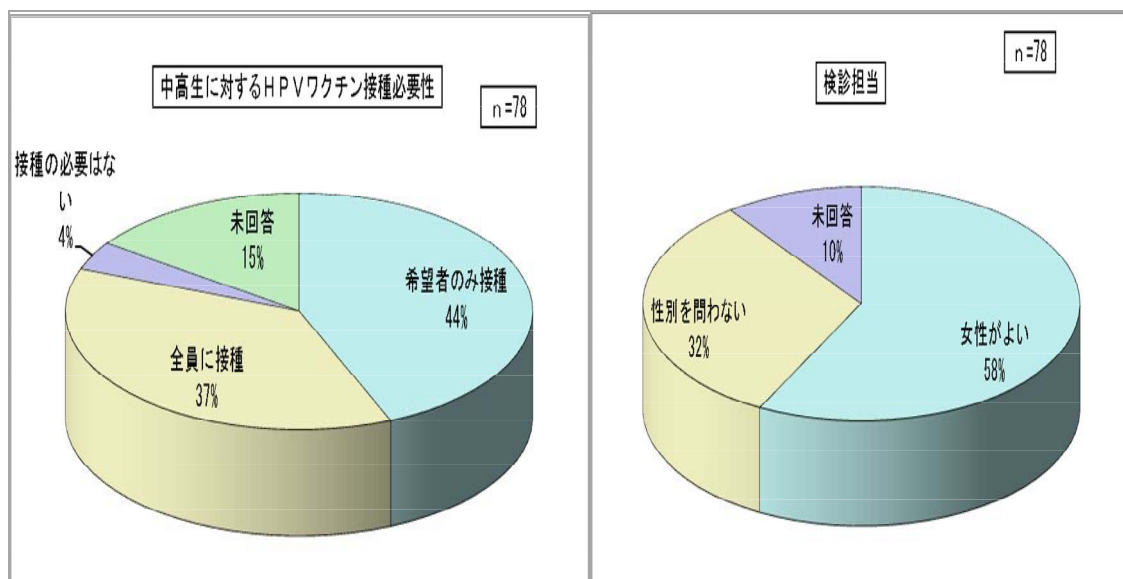
（男性：9 名、女性：58 名、
無回答 11 名）











■ 子宮がん検診の受診者を増やすために、市町村等にやってもらいたいこと又はあなた自身が出来ることがあれば、ご意見をお聞かせ下さい。

- 初期段階で発見出来ることや、手術のことなどを説明する機会があり、検診の必要性を十分に提供してほしい。
- 子宮がん検診に実際いくらかかるのか、時間がかかるのでは？と二の足を踏んでいる人が周囲には多いです。土日に献血のようにここに行けば良いという場所があり、無料ならいいと思います。
- 町誌や市誌などで、検診だけの告知ではなく「この症状がある人は受けてください」と病気について詳しく説明があれば認知度が高まると思う。
- 教育委員会等を通して、小・中学校で保健体育の時間、又は講演会などでテーマとして取り上げ、子供の頃から知ってもらいやり方がいいのでは？私の小学校ではH I Vの勉強をやっていました。
- 献血のようにお土産を出してはどうか。母子（親子）、カップル、友達同士で受診しいいこうキャンペーン。
- 受診者年齢を20歳からにして、公費負担もしくは保険適用にして欲しい。
- どうしても若い子には異常を感じないと病院や検診にいけない人が多く、親がいくら必要だと言っても恥ずかしいとかで行けないようだ。最初は女医の方が気が楽のようだ。映画の効果（余命一カ月の花嫁）が少しずつ現れてきているようだ。
- 受診の際、補助額を増やすと、受診するきっかけになると思います。
- どの年代に聞かせたい、知らせたいかで変わってくるかと思っています。
- 講演を聞いて検診が怖くなく、重要ということとてもわかりやすく説明していたと思います。
- 中学生くらいから子宮がん等（他のがんも含む）についての検診や健康管理方法の教育をして欲しい。学校の保健などでも講演してもらいたいです。